

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3127234号
(U3127234)

(45) 発行日 平成18年11月24日(2006.11.24)

(24) 登録日 平成18年11月1日(2006.11.1)

(51) Int. Cl. F I
A 6 3 B 53/06 (2006.01) A 6 3 B 53/06 B
A 6 3 B 53/04 (2006.01) A 6 3 B 53/04 A

評価書の請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2006-7448 (U2006-7448)
 (22) 出願日 平成18年9月14日(2006.9.14)

(73) 実用新案権者 500066735
 大田精密工業股▲ふん▼有限公司
 台湾、屏東県内埔郷豊田村建富路8号
 (74) 代理人 100101214
 弁理士 森岡 正樹
 (72) 考案者 林 忠謙
 台湾、屏東県内埔郷豊田村建富路8号 大田精密工業股▲ふん▼有限公司内
 (72) 考案者 胡 順富
 台湾、屏東県内埔郷豊田村建富路8号 大田精密工業股▲ふん▼有限公司内
 (72) 考案者 許 燕吉
 台湾、屏東県内埔郷豊田村建富路8号 大田精密工業股▲ふん▼有限公司内

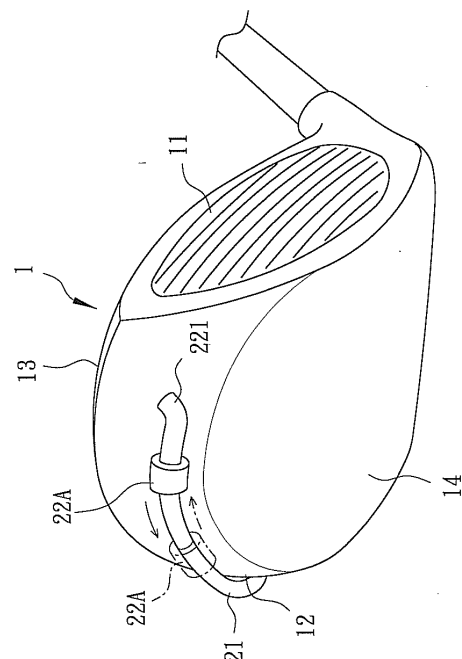
(54) 【考案の名称】 重心調整可能なゴルフクラブヘッド

(57) 【要約】

【課題】 使用者の癖等に応じたウェイトバランスを取ってゴルフクラブヘッドの重心位置を調整とすることができ、製造に簡単である上、もっと重心を下げるゴルフクラブヘッドを提供しようとするをその目的とする。

【解決手段】 ボールに当たる瞬間の直前の姿勢を基準として、ボールを打撃する打撃面と、前記打撃面の左右両側から後ろの方へ互いに接続して一体になるように延びてなった後側面とを備えているゴルフクラブヘッドにおいて、前記後側面に、ウェイトがそれに沿って前記打撃面の左右両側の方へと移動可能に取付けられている。なお、前記後側面に、アーク状の案内ロードが、その両端が前記打撃面の左右両側にそれぞれ近い2の箇所から突出して前記後側面と隙間を空け、前記2の箇所の間に延在しており、前記ウェイトは、前記案内ロードに移動可能また係止可能に取付けられている重心調整可能なゴルフクラブヘッドを提供する。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

ボールに当たる瞬間の直前の姿勢を基準として、
ボールを打撃する打撃面と、
前記打撃面の左右両側から後ろの方へ互いに接続して一体になるように延びてなった後側面とを備えているゴルフクラブヘッドにおいて、
前記後側面に、ウェートがそれに沿って前記打撃面の左右両側の方へと移動可能に取付けられていることを特徴とする、重心調整可能なゴルフクラブヘッド。

【請求項 2】

ボールに当たる瞬間の直前の姿勢を基準として、
前方にあってボールを打撃する打撃面と、
前記打撃面の左右両側から後方へ互いに接続して一体になる上、上下それぞれ開口になるように延びてなった後側面と、
前記上開口をカバーしたクラウンと、
前記下開口をカバーしたソールとを有するゴルフクラブヘッドにおいて、
前記後側面の前記ソールに近いところに、ウェートが前記後側面に沿って前記打撃面の左右両側の方へと移動可能に取付けられていることを特徴とする、重心調整可能なゴルフクラブヘッド。

10

【請求項 3】

ボールに当たる瞬間の直前の姿勢を基準として、
前方にあってボールを打撃する打撃面と、
前記打撃面の左右両側から後方へ互いに接続して一体になる上、上下それぞれ開口になるように延びてなったアーキ形状の後側面と、
前記上開口をカバーしたクラウンと、
前記下開口をカバーしたソールとを有するゴルフクラブヘッドにおいて、
前記後側面の前記ソールに近いところに、ウェートが前記後側面のアーキ面に沿って前記打撃面の左右両側の方へと移動可能に取付けられていることを特徴とする、重心調整可能なゴルフクラブヘッド。

20

【請求項 4】

前記アーキ形状の後側面に、アーキ形状の案内ロードが、その両端が前記打撃面の左右両側にそれぞれ近い 2 の箇所から突出して前記後側面と隙間を空け、前記 2 の箇所の間に延在しており、
前記ウェートは複数あって、前記案内ロードに移動可能また係止可能に取付けられていることを特徴とする、請求項 3 に記載の重心調整可能なゴルフクラブヘッド。

30

【請求項 5】

前記後側面の前記ソールに近いところに凹所が前記打撃面の左右両側の方へと延在しており、
前記案内ロードは、前記凹所内に設置されていることを特徴とする請求項 4 に記載の重心調整可能なゴルフクラブヘッド。

【請求項 6】

前記案内ロードは、複数あることを特徴とする請求項 4 または 5 に記載の重心調整可能なゴルフクラブヘッド。

40

【請求項 7】

前記ウェートは、閉環状のものであることを特徴とする請求項 4 または 5 に記載の重心調整可能なゴルフクラブヘッド。

【請求項 8】

前記ウェートは、開環状のものであって、前記案内ロードから取外し可能になっていることを特徴とする請求項 4 または 5 に記載の重心調整可能なゴルフクラブヘッド。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】**

50

【0001】

本考案は、ウェートの固定位置を変えることにより、使用者の癖に合わせて重心位置を調整することが可能なゴルフクラブヘッドに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、比較的高い重心を持つゴルフクラブヘッドが使用されれば、打ち出し角及び打たれたゴルフボールの飛翔軌道に悪影響を与える。したがって、多くのクラブヘッドは、クラブヘッドの重心を下げるために所定の位置でヘッドに鑄込まれている一体になったウェートを有する。

【0003】

しかし、ゴルフを行なう人は、スイングにある種の癖をもっている場合が多く、ある人は、ボールがスライスしたり、ある人は、ボールがフックしてしまうという特徴がある。このような打球の癖は、その人にあったゴルフクラブがいつも提供されれば、それに慣れることはできるものの、規格品の中から自分にあった道具を見出すことは困難であるとともに、新たなゴルフクラブを購入した場合には、再びそれに慣れなければならない。これによって、クラブヘッドの重心を下げる以外、重心位置を調整可能とすることも必要である。

【0004】

ところで、従来のゴルフクラブヘッドには重心が下げられているものもあるが、そのようなものは、ゴルフクラブヘッド本体の内部にウェートが入れてあって固定式になったので、重心の更なる調整が不可能であり、製造にも困難である上、重心の下げられることに限りがある。

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0005】

したがって、本考案は、このような実状に鑑み、使用者の技術、体力、スイングの癖等に応じたウェートバランスを取ってゴルフクラブヘッドの重心位置を調整することができる上、製造に簡単であるゴルフクラブヘッドを提供しようとすることをその第1の目的とする。

【0006】

また、従来より、もっと重心を下げるゴルフクラブヘッドを提供しようとすることをその第2の目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記目的を達成するために、本考案は、ボールに当たる瞬間の直前の姿勢を基準として、ボールを打撃する打撃面と、前記打撃面の左右両側から後ろの方へ互いに接続して一体になるように延びてなった後側面とを備えているゴルフクラブヘッドにおいて、前記後側面に、ウェートがそれに沿って前記打撃面の左右両側の方へと移動可能に取付けられている重心調整可能なゴルフクラブヘッドを提供する。

【0008】

なお、前記後側面に、アーク状の案内ロードが、その両端が前記打撃面の左右両側にそれぞれ近い2の箇所から突出して前記後側面と隙間を空け、前記2の箇所間に延在しており、前記ウェートは、前記案内ロードに移動可能また係止可能に取付けられている重心調整可能なゴルフクラブヘッドを提供する。

【考案の効果】

【0009】

前記構成によるゴルフクラブヘッドは、ウェートが後側面に沿って打撃面の左右両側の方へと移動可能に取付けられているので、ウェートの移動により重心が外から容易に調整可能な上、製造にも簡単である。

【0010】

10

20

30

40

50

また、前記ウェートを保持しているアーキ状の案内ロードは、ゴルフクラブヘッドの後側面から後ろへ突出するようになっているので、前記ウェートの位置をやや後ろに移し、重心をもっと下げることができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0011】

以下、本考案に関する重心調整可能なゴルフクラブヘッドの好適な実施形態を、図面を参照しながら説明する。なお、図中、似ている部分には、同一の参照符号を付する。

まず、図1、図2及び図3を参照しながら本考案の第1の実施形態の重心調整可能なゴルフクラブヘッドを説明する。

【0012】

図1に示すように、本実施形態の実施例1のゴルフクラブヘッド1は、ボールに当たる瞬間の直前の姿勢を基準として、前方にあってボールを打撃する打撃面11と、打撃面11の左右両側から後方へ互いに接続して一体になる上、上下それぞれ開口になるように延びてなったほぼアーキ状の後側面12と、前記上開口をカバーしたクラウン13と、前記下開口をカバーしたソール14とを有する。

【0013】

また、後側面12のソール14に近いところに、アーキ状の案内ロード21が、その両端が打撃面11の左右両側にそれぞれ近い2の箇所から突出して後側面12と隙間を空け、前記2の箇所の間に延在している。このアーキ状の案内ロード21に、一つのウェート22Aが、後側面12のアーキ面に沿って打撃面11の左右両側の方へと移動可能また係止可能に取付けられている。本実施例1の案内ロード21は、ゴルフクラブヘッドの外にあるので、製造に簡単であり、また、後ろに突出しているため、前記ウェートの位置をやや後ろに移し、ゴルフクラブヘッド全体の重心を従来のもより下げている。そしてまた、本実施例1のウェート22Aは、閉環状のものであって案内ロード21から簡単に取外せないものの、その移動によりゴルフクラブヘッドの重心を外から容易に調整可能である。

【0014】

なお、本実施例では、案内ロード21はアルミ合金からなったものであるが、他の金属材料、例えばアルミ、ステンレス鋼など、または金属材料でないもの、例えば炭素繊維からなっても良い。

【0015】

次に、図2を参照しながら本実施形態の実施例2の重心調整可能なゴルフクラブヘッドを説明する。本実施例2におけるウェート22Bは、一つだけであるが、閉環状のものであって、案内ロード21へまた案内ロード21から簡単に取付け取外し可能になっているので、その移動ばかりでなくその取付け取外しによってもゴルフクラブヘッドの重心を調整することができる。

本実施形態の実施例2のゴルフクラブヘッドの他の構造は、前記実施例1のと同じなので、ここでその説明を省く。

【0016】

そして、図3を参照しながら本実施形態の実施例3の重心調整可能なゴルフクラブヘッドを説明する。本実施例3におけるウェート22Cは複数の閉環状のものであるので、その移動ばかりでなくその増減によってもゴルフクラブヘッドの重心を調整することができる。

本実施形態の実施例3のゴルフクラブヘッドの他の構造は、前記実施例1のと同じなので、ここでその説明を省く。

【0017】

前記実施形態からみると、本考案のゴルフクラブヘッドは、前記ウェートを、ゴルフクラブヘッドの後側面から後ろへ突出させているので、前記ウェートの位置をやや後ろに移し、重心を従来のもより下げることができるが、その利用法はこの限りではなく、重心を本来のまま維持しても可能である。その例を以下のように挙げる。

10

20

30

40

50

【 0 0 1 8 】

また、図 4、図 5 及び図 6 を参照しながら本考案の第 2 の実施形態の重心調整可能なゴルフクラブヘッドを説明する。

図 4 に示すように、本実施形態の実施例 4 のゴルフクラブヘッド 1 は、後側面 1 2 のソール 1 4 に近いところに凹所 1 2 1 が打撃面 1 1 の左右両側の方へと延在しており、案内ロード 2 1 は、凹所 1 2 1 内に設置されている。この実施形態の他の構造は第 1 の実施形態の実施例 1 のゴルフクラブヘッド 1 とまったく同じであるので、その説明を省く。

【 0 0 1 9 】

図示のように、この実施例 4 におけるウェイト 2 2 D は複数の開環状のものであるが、すべて凹所 1 2 1 内にあって外に突出していません、ゴルフクラブヘッドの重心を従来のものの範囲内に保持している。

10

【 0 0 2 0 】

そして、図 5 を参照しながら本実施形態の実施例 5 の重心調整可能なゴルフクラブヘッドを説明する。本実施例 5 におけるウェイト 2 2 E は複数の閉環状のものであるが、それらが位置している凹所 1 2 1 は実施例 4 のと同じく、それらをすべて凹所 1 2 1 内に収容している。

本実施形態の実施例 5 のゴルフクラブヘッドの他の構造は、前記実施例 4 のと同じなので、ここでその説明を省く。

【 0 0 2 1 】

また、図 6 を参照しながら本実施形態の実施例 6 の重心調整可能なゴルフクラブヘッドを説明する。本実施例 6 における凹所 1 2 1 は、実施例 4 及び実施例 5 となんら違いがないが、凹所 1 2 1 内に複数の案内ロード 2 1 1、2 1 1 が設置されている。

20

本実施形態の実施例 6 のゴルフクラブヘッドの他の構造は、前記実施例 4 のと同じなので、ここでその説明を省く。

【 0 0 2 2 】

本考案は、その精神及び必須の特徴事項から逸脱することなく他のやり方で実施することができる。従って、本明細書に記載した好ましい実施例は例示的なものであり、限定的なものではない。

【 産業上の利用可能性 】

【 0 0 2 3 】

如上的ように、本考案は、ゴルフクラブヘッド本体の外部にウェイトが取付られているので、重心位置を調整とすることができる上、製造に簡単である。

30

また、重心の下げられることは、いっそう良くなったので、使用に合う場合さらに広くなった。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 2 4 】

【 図 1 】 本考案の重心調整可能なゴルフクラブヘッドの実施例 1 の斜視図。

【 図 2 】 本考案の重心調整可能なゴルフクラブヘッドの実施例 2 の側面図。

【 図 3 】 本考案の重心調整可能なゴルフクラブヘッドの実施例 3 の側面図。

【 図 4 】 本考案の重心調整可能なゴルフクラブヘッドの実施例 4 の側面図。

40

【 図 5 】 本考案の重心調整可能なゴルフクラブヘッドの実施例 5 の背面図。

【 図 6 】 本考案の重心調整可能なゴルフクラブヘッドの実施例 6 の側面図。

【 符号の説明 】

【 0 0 2 5 】

1 ゴルフクラブヘッド

1 1 打撃面

1 2 後側面

1 2 1 凹所

1 3 クラウン

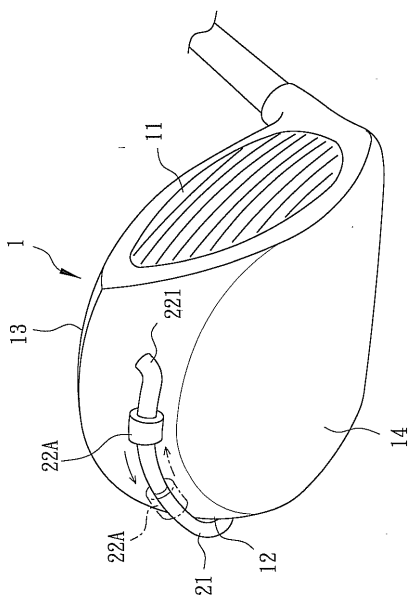
1 4 ソール

50

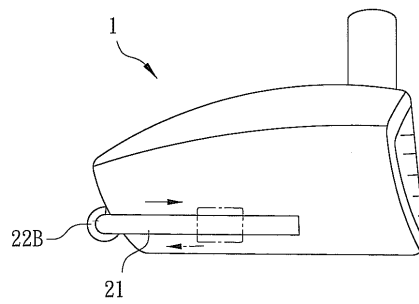
21、211 案内ロード

22A、22B、22C、22D、22E、22F ウェート

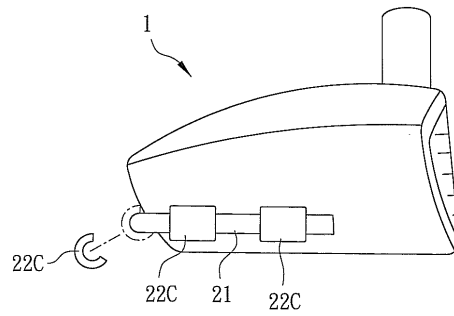
【図1】



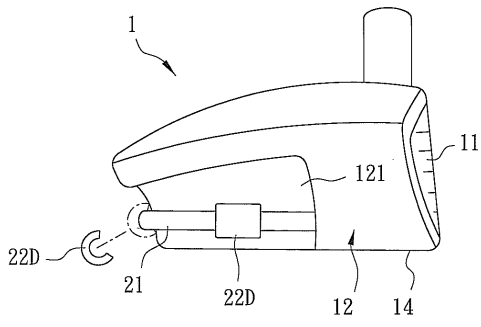
【図2】



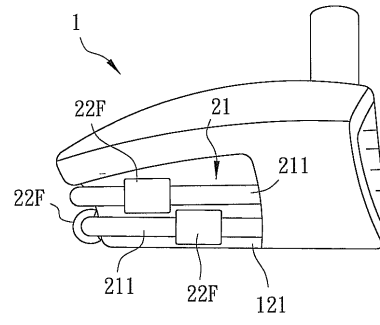
【図3】



【 図 4 】



【 図 6 】



【 図 5 】

